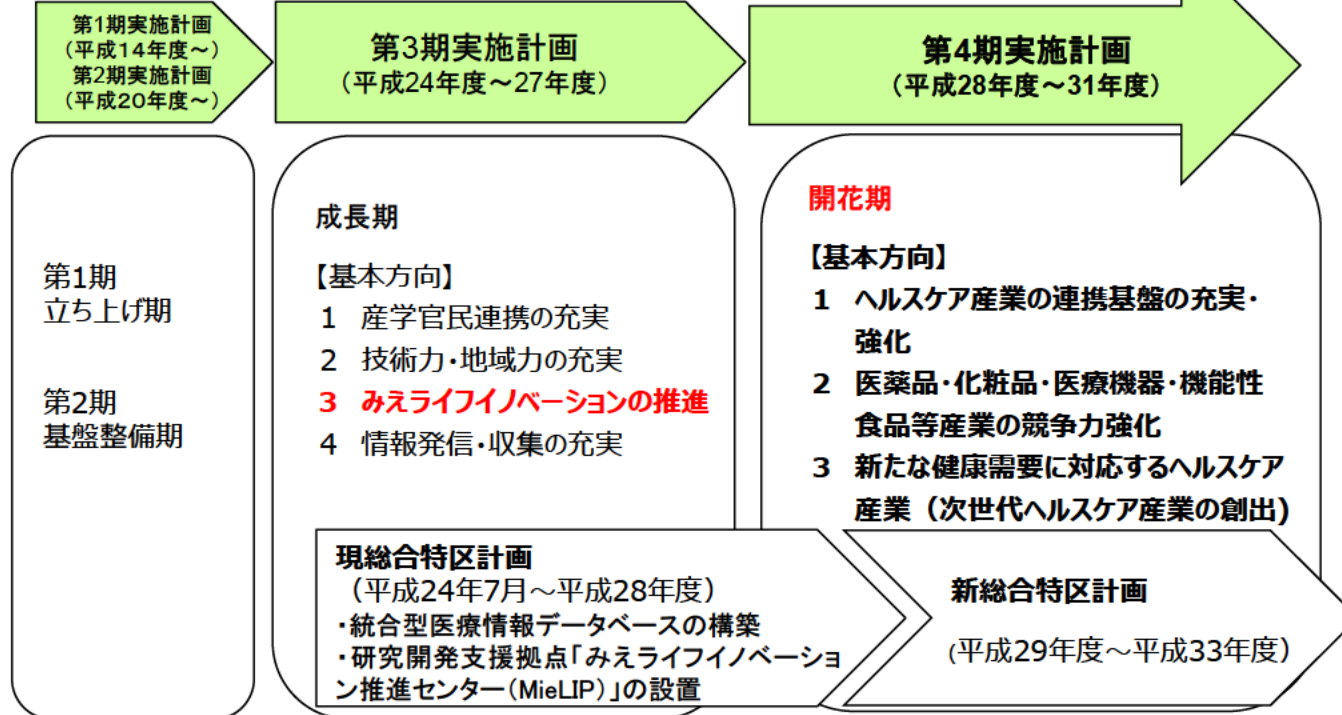


メディカルバレー構想の推移



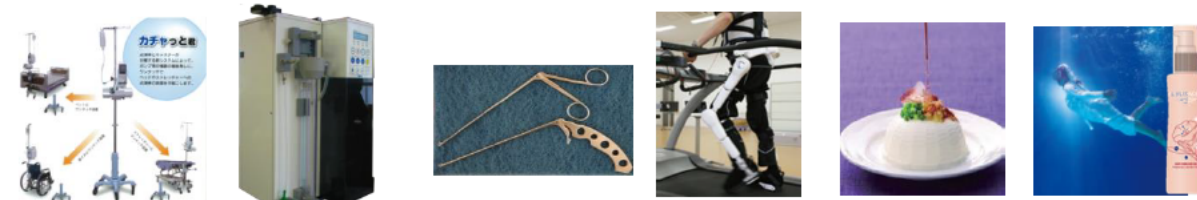
現行計画の取組内容と成果

(1)みえライフイノベーション推進センター(MieLIP)の設置(県内7箇所)

【実績・平成27年度】

- ・MieLIP支援により企業等が新たに取引を開始した製品・サービス件数 97件
- ・新市場開拓規模 461百万円
- ・新規雇用創出数 36人
- ・MieLIPが参画した競争的資金獲得件数 7案件

【製品・サービス成果事例】



点滴スタンド 軟性内視鏡洗浄消毒器 アリゲーター鉗子 鈴鹿ロボケアセンター 高カロリー豆腐 ボディ用美容液

(2)統合型医療情報データベースの構築(三重大学医学部附属病院)

- ・県内10医療機関が参画予定。
- ・平成27年度までに6万人収集(目標30万人)

【特区制度の活用】

- ・総合特区推進調整費:1件(MieLIP及び支援体制の整備(平成25年度。予算額131,585千円))
- ・総合特区推進利子補給金:7件(平成25～27年度)
- ・規制緩和の要望:健康増進に資する機能性食品の効能効果の表示・広告の実施 等

新総合特区計画(案)

～「基盤整備」から「具体的な製品創出」を目指す新たなステージへ～

目標:画期的な医薬品、医療機器等を創出するとともに、企業や研究機関の立地、県内への研究開発資金の投入、雇用の拡大等によって、県内経済の活性化を生み出し、ライフイノベーションに寄与する地域になることを目指す。

※下線部が変更・新規箇所。

地域活性化方針

プロジェクトの具体例

評価指標

【現行計画】

政策課題1

【研究開発を促進するプラットフォームの整備】

<解決策>

- 統合型医療情報データベースの構築、活用
- MieLIPの整備

政策課題2

【研究開発支援プラットフォーム活用の推進】

<解決策>

- 先駆的な医療情報データベースやニーズ収集機能、臨床・共同研究支援機能等の有効活用
- MieLIPによる地域の特色やポテンシャルを活かした製品の研究開発、産業創出、人材育成支援の促進

【新計画(案)】

政策課題

【研究開発を促進するプラットフォーム活用の更なる推進】

<解決策>

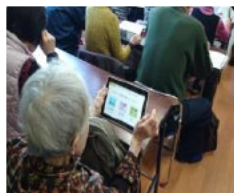
- 統合型医療情報データベースを活用した共同研究の推進
- MieLIPを核とした産学官民金による製品開発プロジェクトの組成
- 特区内での実証実験・臨床試験実施による製品・サービスのブラッシュアップ
- 国内外への販路開拓支援

・メイドインみえインプラント製品の開発



日本人の体形に合わせた国内製インプラントを県内ものづくり企業が開発。「次世代脊椎インプラントの開発プロジェクト」(桑名精工(株)、水貝製作所(株)、三重大学、産総研、KISCO(株)、県工業研究所 等)

・認知症ケアを目的とした製品や公的保険外サービスの開発



アクティブシニアが高齢者の生活支援サービスを提供。「亀山QOL支援モデル事業」(シャープ(株)、亀山市、亀山市シルバー人材センター等)

伊勢志摩サミット、認知症サミットの成果を産業に活用。

【現行計画】<H25～H27の実績>

指標	目標値	実績値(進捗度)
(1)統合型医療情報データベースの規模	30万人	6万人(20%)
(2)医療・福祉現場のニーズの収集件数	1,600件	2,109件(132%)
(3)①医薬品生産金額50%増加(平成22年比)	159,096百万円	102,855百万円(65%)
(3)②医療機器生産金額100%増加(平成22年比)	5,404百万円	3,994百万円(74%)
(4)①研究開発支援プラットフォームの活用機関数(県内)	40機関	125機関(313%)
(4)②研究開発支援プラットフォームの活用機関数(県外)	24機関	89機関(371%)
(5)医療・健康・福祉分野企業(第2次創業含む)及び研究機関の立地件数	40件	39件(98%)

【新計画(案)】<H29～H33>

指標	目標値
(1)統合型医療情報データベースを活用した製薬企業等との共同研究契約の締結数	件
(2)MieLIPを活用して上市されたヘルスケア分野の製品・サービス数	件
(3)①ヘルスケア分野の製品・サービス新市場開拓規模	百万円
(3)②ヘルスケア分野の製品・サービスに関する新規雇用創出数	人
(4)ヘルスケア分野企業(第2次創業含む)及び研究機関の立地件数	件